令和元年度「知事と市町長の１対１対談」（大台町）概要

１　対談市町　　大台町（大森（おおもり）　正信（まさのぶ）　大台町長）

２　対談日時　　令和元年６月２５日（火）１３：３０～１４：３０

３　対談場所　　奥伊勢フォレストピア１階交流会場

４　対談項目１　大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークのＰＲについて
　　対談項目２　清流宮川の水量確保について
　　対談項目３　「子どもが育つ大台町」を目指して
　　対談項目４　県道大台宮川線（新薗井橋　他２橋）の拡幅及び支障木等の伐採について

５　対談概要

対談項目１　大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークのＰＲについて

（町長）

平成28年３月20日に「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」の拡張登録が決定され、３年が経過し、毎年海外からお客様が来町され、ビジネスの可能性が芽生えたり、情報発信力が高まったりなどの効果が見え始めています。

「持続可能な開発目標」としてSDGsが、国連サミットで採択され、国内でもよく耳にするようになりました。こうした動きに更に拍車がかかるように、奈良県の各自治体や省庁、大学などと構成する大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク協議会主催で令和２年１月10日にユネスコエコパークに関するシンポジウムの開催を大台町で予定しています。ユネスコエコパークの発信力強化にお力添えをいただくとともに、シンポジウムが有益なものとなるよう、盛り上げていただければと思います。

（知事）

ユネスコエコパークの指定を生かした情報発信や保全に取り組んでいくことは重要であると考えています。

県では、登山者への自然環境保全や安全登山に対する意識啓発、大杉谷登山歩道の整備、ボランティアと連携した登山歩道の維持・修繕、豊かな自然を生かした滞在型交流（農泊）の推進などを進めています。

都道府県で初めてアウトドア用品メーカーの「モンベル」と協定を結んでおり、「モンベルフレンドフェア」に出展していますので、その場での情報発信やＳＮＳ、テレビ番組、雑誌等のメディアによるＰＲにしっかりと取り組んでいきたいと思います。

一方で、指定の維持・保全のため、大台町や公益財団法人大杉谷登山センターと

ともに「大杉谷入山協力金」の導入について、令和元年度の秋くらいからの試行実施に向け可能性を一緒に検討しています。協力金を活用し、環境美化や利用する方の安全確保、自然環境の保護など、ユネスコエコパークの魅力を持続可能なものにしていくことが重要だと考えています。

また、ユネスコエコパ-クのシンポジウムが有意義なものとなるよう、大台町をはじめ関係者の皆様と連携して取り組んでいきたいと考えています。

（町長）

ユネスコエコパークが大台町全域に拡張されましたが、拠点がはっきりしていないと感じています。ビジターセンターの設置について、考えを聞かせてください。

（知事）

ビジターセンターは、国立公園の中で自然や文化の特徴を理解してもらうため、写真等の展示や案内を行う場所です。新たにビジターセンターを設置するにあたっては、場所の選定や維持管理をどうするかなどの課題があります。大台町、三重県、環境省の三者で協議する場を作り、ビジターセンター設置に向けた議論をしていきたいと思います。また、大台町と同じ思いで、環境省にしっかりと要望をしていきたいと思います。

対談項目２　清流宮川の水量確保について

（町長）

大台町を流れる宮川は、毎年、国土交通省が実施する全国の１級河川の水質調査で何度も「水質が最も良好な河川」に選ばれている清流日本一の河川です。

水量については、宮川ダムに選択取水設備が設置されたことから、平成 18 年４月より宮川ダム直下で毎秒０.５トン、また粟生頭首工直下で毎秒３ｔの流量を確保していただいていますが、今年は春先からの雨が少なく、宮川本流の中流から下流域の一部で瀬切れの状態となっている箇所がありました。この時期は、かんがい時期であることに加えて、町の大きな観光資源である鮎の遡上時期でもあり、瀬切れの状態が続けば遡上と生育への影響が懸念されます。夏場の友釣り客をはじめとする入込客のイメージダウンに繋がりかねず、町にとって大きな損害となってしまいます。

以前から、良質な水量確保の方法として、国土交通省河川課や三重県地域連携部にもご相談をさせていただいているところですが、このような事態を回避するためにも、昨年もお願いしました大和谷川からの導水についても今一度ご再考いただき、更なる流量の確保にご配慮いただきますようお願いします。

また、１番の希望は大和谷川からの導水であり、調査費の計上をお願いします。

（知事）
国と県では、渇水状況を鑑みて、宮川渇水調整協議会の合意のもと、農業用水の取水制限を実施するなど渇水調整を行っていましたが、４月末からの降雨により流況の改善が見られたことから、６月 11 日に渇水調整を終了しました。
引き続き、国と連携し河川の状況を監視するとともに、渇水の際には、今年のように、必要な対策を適切に実施していきたいと思います。
一方、渇水対策とは別に平成 26 年度から、６月から９月の期間において粟生頭首工の直下、毎秒３トンの水量の確保を目標とした「流量回復」に取り組んでいるところです。平成 31 年４月の特に流量が少ない期間においても、粟生頭首工の直下に毎秒３トンの放流が行われていたことを確認しています。
毎秒３トンの流量を安定的に確保するには、河川流量や水需要状況のさまざまなパターンを考慮する必要がありますが、これまで流量回復放流を行った実績は平成 26 年度と平成 28 年度の２回であり、検証をし影響を確認するには実績が少ないと考えていますので、引き続き、渡邉副知事を座長とする部長級をメンバーにした「宮川流域振興調整会議」で運用面での課題の検証を行い、目標達成に向け取り組んでいきたいと思っています。
放流量についても「宮川流域振興調整会議」において検証し、よく意見を伺いながら、議論するよう指示したいと思います。

対談項目３　「子どもが育つ大台町」を目指して
（町長）
私は５つのまちづくりビジョンを掲げていますが、その中でも「子どもが育つ大台町」をめざして、ライフステージに応じた各種支援を行っています。
大台町にしっかり根を張った子どもたちを育成し、一時は大台町を離れても将来はふるさとに戻ってきたいという人材の育成につなげています。また、いつまでも大台町のセールスマンであってほしいと思っています。
県におかれましても、結婚支援では、「みえ出逢いサポートセンター」を設置して、結婚を希望する方々への出逢いの場に関する情報提供や各種講座を開催されていますが、本町の婚活事業との連携にも引き続きご協力をいただき、オール三重で結婚を望む男女の背中を後押しできればと思います。

（知事）
人口減少に歯止めをかけるためには、社会減と自然減をいかに減らすかが重要です。社会減である若者の転出を抑えることが、自然減の縮小にも繋がっていくことになるため、いかに若者を定着させるか、戻って来たくなるようにさせるかが大きな課題だと考えます。

人口減少対策として地域内の市町が連携し、出逢い支援に取り組む必要があると考えています。

「みえ出逢いサポートセンター」は、四日市市にあるため活用しにくいとの声を受け、令和元年度は新たに、センターの職員が地域に出向き、市町や団体からの相談を受け付ける「地域サテライト事業」を実施する予定です。

また、将来的にこの地域に住みたい、戻ってきたいと思ってもらうには、この地域のことを好きになってもらうことが重要だと考えています。

県が作成した「ふるさと三重かるた」では、大台町の歴史や北畠家の史跡を読んだ札があり、大台町内のすべての小学校で活用されています。昨年３月に作成した英語教材「Let's Talk About Mie」では、大台町の魅力が英語で紹介されており、県内の全小中学校に配布し、活用を呼び掛けています。

小学校では平成 30 年度から道徳科を通して「国や郷土を愛する態度」の育成を図ることとされ、大台町においても、平成 30 年度は三瀬谷小学校で県の道徳教育アドバイザーを活用いただき、積極的に子どもたちの道徳性を養う取組を進めていただきました。

県としても、出逢い支援の後押しや郷土教育に対する大台町との連携を積極的に進め、少しでも人口減少に歯止めがかかるようにしてきたいと思います。

対談項目４　県道大台宮川線（新薗井橋　他２橋）の拡幅及び支障木等の伐採について

（町長）

奥伊勢フォレストピアを訪れる観光客は、紀勢自動車道大台大宮 IC を降りて国道 42 号を通過し、県道大台宮川線を走行することになります。フォレストピアまでの経路は、地域住民の生活道路であり、２車線改良がなされていない弥起井地内の新薗井橋、上真手地内の井之谷橋、本眞橋の３カ所では大型車両との対向ができず交互通行となってしまいます。

加えて、県道沿いの草木が車両の走行に支障をきたす状況でもあります。特に、夏場の鮎釣り、大杉谷をはじめとする観光シーズンには、交通量が多い朝夕通勤時間帯と重なると、渋滞を引き起こす要因となっています。

また、宮川地域の住民の交通手段として自家用車は必須ですが、近年は高齢者のドライバーの占める割合が増えており、狭あいな道路においては、交通量が多い時間帯に安心して運転ができないなど、日常生活に制限がかかる状況となっています。とりわけ、とこわか国体開催時には、１週間で延べ１万４千人の入込客が見込まれるため、交通事故が発生しないかと今から心配をしているところです。

高齢者や観光客ドライバーも含め、誰もが安全安心に走行できるよう、新薗井橋、井之谷橋、本眞橋の拡幅及び県道沿いの支障木等の伐採について、特に町営バス路

線・スクールバス路線における伐採を優先してご検討をお願いします。

（知事）

平成30年の対談でご要望いただいた県道大台宮川線の新薗井橋東側（弥起井地内）の道路整備については、国体開催までの整備完了を目指し、令和元年度は用地取得を行った上で工事に着手する予定であり、ペースを上げて取組を進めています。

新薗井橋、井之谷橋、本眞橋については、６～6.5mの幅員があることから、緊急に整備すべき箇所としては位置付けておりませんが、大台町内での順位付けは、大台町とよく協議を行い、地域生活に影響の大きい箇所を中心に道路整備事業を実施していきたいと思っています。まずは現在事業中の箇所の整備をしっかりと推進し、事業効果を早期に発現させていきたいと考えています。

県管理道路沿いの樹木の伐採については、随時、枝払い等を実施していますが、支障となる樹木が民有地にある場合は、所有者に伐採を依頼することになります。大台町や地元自治会の協力を得て、支障となる樹木のある民有地の所有者特定、伐採について、連携しながら進めていきたいと思っています。